

植物と人々の博物館メールマガジン

第 108 号 2024 年 2 月 2 日発行



蠟梅や紅梅が平年より 2 週間ほど早く咲きました。豌豆も開花しています。人間界がどうであろうと自然界は巡っていきます。美しい草花は正直です。人間の中にも草花の心をもった人たちもいます。これらがパンドラの壺に残された希望なのだと思います、そのアニマを信仰します。

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024 年も社会的共通文化財である標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開したいです。ご一緒していただければありがたいです。

1. 植物と人々の博物館

○開館・作業予定日：今年冬季休館します。2024 年 3 月 4 日から原則月曜日、10：30～14：10 に開館します。この間に、さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行います。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただくと嬉しいです。ご協力いただける方があれば日程は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡いただければ、いつでも日程調整してご案内します。

担当 木俣 kibi20kijin@yahoo.co.jp

○報告

1) 植物と人々の博物館運営担当者の協議

日時：2023 年 12 月 18 日

話題：植物と人々の博物館の今後の運営について①

出席者：西村担当理事、宮本担当運営委員、井村担当運営委員、木俣専任研究員・担当運営委員、中込代表理事、黒澤事務局長・理事。事後 12 月 20 日に安孫子顧問研究員に報告、協議。

内容：収蔵品の措置、活動内容、運営、出版物、ホーム・ページ、その他。さらに検討を進めて、自然文化誌研究会総会（2024 年 2 月 10 日）の合意を得る。

日時：2024 年 2 月初め予定

話題：植物と人々の博物館の今後の運営について②

2) メーリング・リストを再編しています。新たに送付ご希望の方、今後ご希望されない方、お知らせください。それぞれにご対応します。

○予定など

1) 民族植物学ノオト第 17 号は 2024 年 3 月末に発行する予定です。皆様も自由にお

書きください。「雑穀街道普及会顛末記」は書きたいと思います。これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。相当数の方々が読んでくださっています。

<http://www.ppmusee.org/goods.html>

3) 電子書籍：

編集子の自選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は現在、第12章中央アジア諸国からアフロアジア地域までを記述しています。この地域には1993年、1997年に調査に行きました。第4章南インドの雑穀文化複合をまとめていきますが、なかなか進捗しません。同時に、50年の研究成果のまとめとして自選集 V “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。また、自選集 VI『随筆集—生き物の文明への黙示録』に順次新作を追加しています。

4) 公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業（ndl.go.jp）で毎年1回7月20日頃に収録されています。すべての記事は無料で公開しています。ここに保存されている記事は記録として残りますので、ありがたいです。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。ご協力いただけるとうれしいです。 <http://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

うかたま、現代農業、つぶつぶ新春号、市史研究粕江第9号、泉龍寺仏教文庫を寄贈いただきました。感謝申し上げます。

西村文庫へは西川至先生のご遺言により、追加でインド関係書籍100冊ほどをお預かりします。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている1円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。植物と人々の博物館へのご寄付あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として保存・公開するために、費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。ご希望の方には自給農耕ゼミ（佐野川）で有機無農薬により栽培したキビなどを精白／製粉して適量を差し上げます。これまでに、多くの方にご寄付を頂き、感謝しています。2023年度末で決算報告をします。郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

2. 自然文化誌研究会

○予定 詳細は下記ホーム・ページをご覧ください。

2月10日(土) 11:00~12:00 通常総会 ZOOM

3. 雑穀街道普及会：閉会解散

この10年間の経緯の詳細については、「雑穀街道普及会の顛末書～大きな感謝と少ない謝罪(仮題)」を民族植物学ノオト 17号に書いて、詳細をご報告し、記録を残します。雑穀街道普及会は解散しましたが、下記ホーム・ページにアーカイブを公開しておきます。これらは国会図書館のデジタル事業に登録しているので、記録は残ります。 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

参考動画 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

[雑穀街道をFAO世界農業遺産に - YouTube](#)

[【報告】FFPJ連続講座第21回：日本における麦・雑穀・豆類の栽培はなぜ衰退したのか - ニュースレポート](#)

FAO 国際雑穀年ウェブセミナー第2回 日本の雑穀小史 木俣報告

[The historical sketch of millets in Japan](#)

[雑穀街道普及会説明会\(2023年9月最終集会\)映像](#)；梶間陽一氏制作

<https://www.youtube.com/watch?v=TF8hdpFPe0g>

資料：<http://www.milletimplic.net/university/farming/grain3fnal.pdf>

4. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全NP04団体と3個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの12世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

○ 報告

1) 雑穀発泡酒ソビボ・ピーボ 復刻企画 東京学芸大学公認事業 終了

ご協力ありがとうございました。会計報告は関係者に別送します。

企画団体：東京学芸大学雑穀発泡酒復刻有志ほか、植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ(佐野川)

連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp. 木俣美樹男(事務担当幹事)

2) 自給農耕ゼミ(佐野川)

- ① 収穫した穀物は木俣が預かりました。適宜、精白、製粉して、参加者の方に差し上げます。
- ② 今年、雑穀栽培を始めたい方には種子を差し上げます。ご連絡ください。
連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男
- ③ 今年も宮本茶園の雑穀畑は継続しますので、種子継ぎなどの作業にご協力ください。作業予定などの連絡先は宮本さんです。
kwangjuul980@yahoo.co.jp ご連絡、ご参加をお待ちしています。

○予定

植物と人々の博物館は今後も継続します。2024年4月を目標に標本、資料や書籍を整理して、森とむらの図書室を充実し、展示も再開します。お手伝いいただければありがたいです。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

1) **今後の計画**について検討しています。博物館研究員の学びを中心に、一般参加希望者には一部公開 zoom の方向で、環境学習セミナー（第41回）を再開する案が出ています。

2) 第39回泉龍寺仏教文庫講座（狛江）

雑穀、生き物の文明への移行～人新世の希望はここにある

日時：2024年3月9日（土） 14:00～16:00

場所：泉龍寺仏教文庫 2階 講義室。狛江駅のすぐ近く。

問い合わせ：03-3480-3251 募集人員：30名（要予約）

資料代：200円 後援：狛江市教育委員会

講師：木俣美樹男（民族植物学、環境学習原論専攻）

農学博士、東京学芸大学名誉教授（元・連合大学院教育構造論講座、
環境教育研究センター教授）

あらすじ：穀物の栽培化過程から人間との共進化を学ぶ。穀物の栽培化過程と伝播。自然、生業文化、産業都市文明から第四紀人新世へ。未来への希望は生き物の文明への移行にある。

講義資料：www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/livecultras.pdf

◎随筆；雑穀物語8 山中進・三千恵夫妻

奥秩父の中津川で1991年から2000年まで、エコミュージアム大滝や冒険学校ほか多彩な環境学習活動を展開しました。私にとっては最高水準の冒険学校の実践で、環境学習理論構築の基盤になりました。これらの活動を強力に支えてくださったのは山中進・三千恵夫妻、即ち進ちゃんとミッチーでした。

高木文雄先生にお願いして、林野庁秩父営林署管轄の造林宿舎大河俣小屋を借用して、自然文化誌研究会のメンバーで修繕し、第4回冒険学校のベースキャンプを作り

始めました。修繕の技術指導は技術科のコニちゃん（小西司）でした。中津川に通い始めて宿泊するようになったのが進ちゃんの民宿中津屋でした。コニちゃんと進ちゃんは意気投合したのでしょう。ここから山中夫妻と自然文化誌研究会冒険探検部のメンバーや参加学生、子供たちとの強い友情が始まりました。たくさんの思い出が、私にもありますが、2つのエピソードを記して、進ちゃんの追悼にしたいと思います。

私が冒険学校の意味と可能性を確信した場面です。子供たちに本物を体験してほしいので、進ちゃんに炭焼きを教えてくださいました。火を扱うことはとても危険で、技術に加え、その場での集中力がいります。ある子供が浮かれていたのも、炭出しは危険だから進ちゃんは本気で叱りました。その瞬間に、子供の目の色が変わりました。炭焼きのおじさん、進ちゃんへの信頼と尊敬の眼差しになったのです。

学生たちがミッチーの誕生日だったかに、ミュージカル「マンマ・ミーヤ」のチケットを贈ったのです。とてもうれしかったミッチーの笑顔を見て、私は彼らの厚情に感謝しました。

冒険学校の拠点が甲斐小菅村に移って、私は疎遠になりましたが、当時の学生たちは終生のお付き合いをしていました。自動車運転を止めたので、秩父に進ちゃんを訪ねることもできず、今生で会いたいと思いましたが、中津川キャンプ場の幸島さんらと一緒に此岸で秩父錦を飲んで、いずれ大宴会をすることになりました。

秩父へも雑穀栽培調査には通いました。山中玉吉さんには栃餅の作り方を習いました。甲武信小屋の山中親子・孫にもお世話になり、やっさん（小川泰彦）やみどりさん（横山緑）達は毎年、登山道整備に通いました。いつも最初にやりだして、突っ走り、あとはお任せというパターンで、自らの人生を反省し、自然文化誌研究会の方々には申し訳ないです。環境主義の私が言うことではないですが、正直に言えば、秩父の山岳道路のまだ暗い早暁を普通自動車で走ることは楽しかったです。暗闇でキツネにも会えるし、日の出と山の神が拝めるからです。ここでも面白い年月を過ごしました。



ソバ打ちをする進ちゃん。植物と人々の博物館トップページのスライドショーImage3で、小菅の畑で種まきをしているのは進ちゃんです。

*雑穀物語 1~4 (2023 国際雑穀年) は「つぶつぶ」誌に、立花夫妻、降矢夫妻、椎葉夫妻および貝澤夫妻の物語としての連載しました。雑穀調査でお世話になった方々についての、この随筆は引き続き、メルマガで連載することにします。

~~~~~

## 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村):

館長: 木下善晴、顧問研究員; 安孫子昭二

研究員: 木俣美樹男 (東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム)、大澤由実 (神奈川) ほか

公式 HP: 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行: 木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村 / ミューゼス研究会 (山梨県小菅村): 代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

自然文化誌研究会: 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)  
<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/> 事務局長: 黒澤友彦 (山梨県小菅村)

~~~~~

写真



泉龍寺の山門、六地藏菩薩、草木の供養塔、仏教文庫玄関



武蔵野公園の蠟梅、プランタ栽培のサヤエンドウの花



野川公園で再建中の自然観察センター、野川のコサギ、

おわりに {ひとりごと／編集子私言}

昨年とはとても多くの文書をさらに多くの方々に送った。いつ頃かから、とても気になりだしたのが OneDrive というアプリケーションが意に反する動きをし出したことである。10月中旬にはあまりに変な動きをするので、10月下旬に説明会などが終了してから、OneDrive 東京学芸大学をアンインストールしたところ、メールが来て大量のデータが削除されたので、残したいならごみ箱から救うようにという警告であった。指示に従い、ごみ箱から復元したら、すべてのデータが消えてしまった。というより、個人 PC にデータはなく、OneDrive 東京学芸大学というフォルダーにクラウドとして保存されていたようだ。そこでさらに OneDrive をアンインストールした。ところが OneDrive 東京学芸大学はそれでも機能し続けていた。東京学芸大学情報センターの助言も得たが、OneDrive は個人用だから、自分でパスワードを入れないと遠隔支援はできないとのことであった。これまで、20 台ほどの PC を使用し、現在も目的別に 4 台使用しているが、このようなことはなかった。もう 1 台のインターネットにつないでいる PC ではこのよう

なことは起こっていない。

インターネットでいろいろ検索し、試みても解決せず、つい Windows の主要ファイルまでアンインストールしてしまい、PC は機能しなくなり、ヨドバシカメラのなんでも相談室で新しい Windows を入れなおしてもらい、同時にインターネットにつながらない PC を購入した。

このような対策をとっても、OneDrive をアンインストールしても、OneDrive 東京学芸大学のフォルダーは機能が消えなかった。そこで、もう一度、東京学芸大学情報センターに相談したところ、退職者は OneDrive for Business の使用ができないことがやっと分かった。つまり私の PC で機能している OneDrive 東京学芸大学は東京学芸大学には存在しないということである。

結局、OneDrive 東京学芸大学というフォルダーは SharePoint というアプリケーションによって、動かされているようであることまでたどり着いた。SharePoint があることさえ知らなかったのに、そこにクラウドとしてデータが蓄積され、個人 PC には保存されていないことが分かった。そこで、SharePoint をアンインストールしたところ、とりあえず、OneDrive 東京学芸大学というフォルダーにデータは保存されなくなった。

認識しないうちに、クラウド供用されてしまうフォルダーが作られていたのだ。古いデータは外付けハード・ディスクなどに保存していたが、最新のデータはその作業をしていなかったのも、すべて失われてしまった。意図的に狙われたのか、過剰な便利に誘導されて、非意識下で、このような事態になったのか、まだ不明である。これがデジタルの功罪である。アナログを好む由縁はここにある。知らないうちに消される、操作される、盗まれる。気をつけようがない悪意が埋め込まれている。

くれぐれも、お気を付けください。経験を証言しておく。メールは関与していないそうだが、奇怪なメールが国内外からたくさん来る。迷惑メールは開けないで、削除する方がよい。最近、2度も突然警報が鳴り、データが失われると表示が出た。これも、直前にテレビのニュースで対処法を見ていたので、Esc の長押しか、Ctrl+Alt+Del で強制終了すれば問題回避できた。古いメールも大方削除した。